

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で (ヨシエル)」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119 : 7、エペソ人 6 : 5 「真心から」、マタイ 13 : 44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ② ダイナミックな多角的、立体構造：
神の視点、人類史に先立って配備された摂理
- ③ 古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：
過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト
- ⑤ 過去百パーセント成就した神の預言の信憑性、未来預言の確かさを確約
⇒ 主の再臨

使徒パウロの宣教

その9

『テサロニケ人への手紙』

☆新約聖書の中で、ガラテヤ書に並び、パウロの最も初期の書簡

☆キリストの甦り後二十年以内に書かれた

☆パウロが新しいキリスト者に最初の三週間に教えたことを集約

『テサロニケ人への手紙第一』のテーマ

☆キリストの再臨

1. 基本的真理
2. 個々の信徒に、「聖くあること」を奨励
3. 先に亡くなった信徒についての確信を提示
4. 信徒に祝福の望みを確証

『テサロニケ人への手紙第一』の背景と概要

☆テモテとシラスがコリントに来る前、

パウロ、生計を立てるため、天幕作りの仕事に従事

☆二人は、マケドニヤの教会から

パウロの必要を満たすための支援物資を運んできた

→使徒の働き 18 : 3-5

☆しかし、テモテとシラス、

テサロニケの教会の新たな深刻な問題をも持ち帰った

☆テサロニケの信徒たちのうちに、

キリストの再臨についてのパウロの教えを誤解し、混乱をひき起こしている者たちがいた

☆パウロとシラスがテサロニケにいたとき、ユダヤ人指導者たちは、

二人を、別の王イエスを説いた「ローマ皇帝に対する反逆」として、知事に訴えた

☆疑いもなく、パウロ自身、初代キリスト者のほとんどと同じく、

キリストの早期再臨を願っていた

☆キリストの速やか、直ちの再臨を願うことは、信徒各自の自由、

しかし、「とき」と季節を定めることは神の手中にあり、私たちの領域ではない

☆キリストの再臨への願望は、

信徒を一層の福音宣教へと駆り立てることになるべき

☆パウロ、終末について信徒たちが抱いた著しい誤解、誤説を訂正するために、

再臨に焦点を絞ったこの書簡を書いた

聖書

1章

: 1 「主」 :

- * 「キュリオス」、LXXでは通常、神に適用
- * パウロ、「父なる神」と同じ次元に「主イエス・キリスト」を位置づけ
「イエス」 :
- * 「イエズース」、ヘブル語ヨシュアのギリシャ語
「キリスト」 :
- * 「クリストス」、ヘブル語のメシヤ、「油注がれた者」に該当するギリシャ語
「教会」 :
- * 「エクレシア」、家々に人々が集められ、神の言葉が教えられた

: 2 「私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し…」 :

- * 何よりも神への感謝（複数形）が優先
→5:18

: 3 「…信仰から出た働き…愛から生まれた労苦…望みに支えられた忍耐…」（新改訳2017） :

- * すべての者が神の御前に現れる裁きの日が眼中
- * 再臨まで辛抱強く待つ間は、主のために忙しい、神の言葉を人に伝えるために忙しい

三つの恩寵

1. 信仰の働き、一働きを生み出す信仰—
2. 愛の労苦
3. 望みの忍耐

☆信仰、愛、希望、これらの恩寵は、過去、現在、未来に言及

: 4 「…あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています」（下線付加） :

- * 選ばれた者は、神の選びであることを自ら知っている

教会、一信徒の集まり—の中心は神

☆信徒は、神によって選ばれ、神に根づき、神からその生命を得る

: 5 「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは…」（下線付加） :

- * 明確な恩寵のメッセージ
- * 言葉、力、聖霊、強い確信で伝えられた「福音」
- * 神の言葉と神の霊は密接に関わっている
→エペソ人6:17

: 6 「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ…」 :

- * 真正な福音はこの世に敵愾心を引き起こす
→コリント人第一2:14

: 7 「…マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです」（下線付加） :

- * 変えられた価値観、人生の考え方
- * 未来に対する明るく正しい見通し
- * キリスト者の健全な人生

: 9 「…偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり」（下線付加） :

- * 忠誠への急進的な変化
「仕える」 :
- * 生ける正真正銘の神に服従し、奴隷として仕える
- * 奉仕の新しい人生を始める

: 10 「…私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望む…」 :

- * 新約の教理で、最も頻繁に言及
- * キリストの再臨は現実で力強い望み
「神が死者の中からよみがえらせなされた御子」 :
- * 死者からのキリストの甦りの事実、パウロ自身、その事実の個人的な証人
- * この事実、パウロの福音（神学のすべて）の礎石

聖書

「やがて来る御怒りから私たちを救い出してください」：

*神の御子イエス・キリストが十字架につけられ、甦られ、天に上られたことは歴史的事実

*このキリスト、再び来られ、神の怒り、一裁き— から、信徒を救い出してください

キリスト者

☆キリスト者の「回心」の姿

1. 偶像との断ち切りの決断 → 信仰
2. 生ける神への喜びの奉仕 → 愛
3. キリストの再臨を忍耐をもって願望 → 希望

キリスト者の新生の人生

☆自分自身を試し、吟味する必要

→コリント人第二13：5

☆信仰の確かな基

1. 内なる証し
2. 生活の変化
3. 主にある兄弟姉妹への愛

2章

: 1 「…私たちがあなたがたのところに行ったことは、むだではありませんでした」：

*仕えることは、神のために生きる人生の核心

*キリスト者個々人が宣教者

: 2 「…神によって、激しい苦闘の中でも、大胆に神の福音をあなたがたに語りました」：

*意を決した勇氣と神にある確信によって

: 3 「私たちの勧めは…迷い…ではなく、だましごとでもありません」：

*パウロの説教、内容も意図も純粹、人の哲学や推測を加えた混ぜ物ではない
「だましごと」：

*最も危険な類の説教は、真理を交えた部分的に正しい説教

: 4 「私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから…」（下線付加）：

*貨幣が本物であるかどうか試す、「試験する、吟味する」の意

*福音宣教は、個人の選択による働きではない

神から真理を委ねられたら、どうするか？

☆あなたは受託者、それを削ってはならない

☆あなたには、責任がある

「神を喜ばせよう」：

*パウロの優先はいつも神の是認

*パウロ、人を喜ばせることに気を使ったときは他の人の利益のため、そうした

→コリント人第一10：33

: 5 「…むさぼりの口実を設けたりしたことはありません…」（下線付加）：

*本当の動機を隠蔽する口実

: 6 「…キリストの使徒たちとして權威を主張することもできたのですが…しませんでした」：

*パウロ、信徒に金銭的重荷をかけなかった

*しかし、福音を宣べ伝える者が生活の支えを受けることは正当、神が定められた権利

→コリント人第一9：6-18

: 7 「…母がその子どもたちを養い育てるように、優しくふるまいました」（下線付加）：

*愛の世話

: 9 「…私たちは…昼も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました」：

*タルムードは、ユダヤ教徒に、

父親が息子に割礼を受けること、律法を教示すること、商売を教えることを要求

聖書

パウロの自活

☆パウロ自身とパウロのミニストリーにとって深い意義

1. キリストの福音を食いものにする人たちの批判を断った
2. 模範的事例を示した
3. 利他的な愛を実証した
4. 自分自身、労苦して、
乏しい収入で助けの必要な人々を顧みることを実践することによって、
これが主の御旨であることを実証することができた
→使徒の働き20：34-35

: 12 「ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように…」 :

- *御国を樹立するのは人ではなく、神ご自身
- *道徳的行為は、日々の生活の習慣的行為であるべき
- *パウロ、単に回心者の数が増えるだけでは満足せず、
回心者が御国にふさわしい器として成長することを求め、奨励

: 13 「…あなたがたは…神のことばとして受け入れて…この神のことばは…」 (下線付加) :

- *ヘブル語 (旧約) 聖書

: 14 「…あなたがたは…キリスト・イエスにある神の諸教会にならう者となった…」 :

- *「従者」とは、師にならう者で、キリストの真の従者であることの証拠は迫害

: 16 「彼らは、私たちが異邦人の救いのために語るのを妨げ…自分の罪を満たしています」 :

- *この世は、キリストの教え、福音に反発する
- *懲らしめは、神の「とき」が満ち、熟すまで保留される

: 18 「…このパウロは…心を決めたのです。しかし、サタンが私たちに妨げました」 :

サタン

☆サタンの働きと特徴のリストの一部

- ☆悪霊の世界の最高権威
→エペソ人2：2
- ☆いつも神に敵対、人の救い、御国の働きを妨害する
→マタイ13
- ☆「肉体のとげ」、一苦難一の源
→コリント人第二12：7
- ☆信じない人たちの心を盲目にする「この世の神」
→コリント人第二4：4
- ☆キリストに不従順な信徒をだまし、つけ入る
→コリント人第二2：11
- ☆欺瞞の「光の御使い」
→コリント人第二11：14
- ☆キリストにすでに敗北した
→コロサイ人2：14-15
- ☆神の許可なくして、神の子らに触れることはできない
→ヨブ記1、2章

: 19 「私たちの主イエスが再び来られるとき…喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう…」 :

- *パウロ、主が再臨されるまでに、
御国に入る者たちが少しでも多く加えられる喜びを求めて宣教に従事

: 20 「あなたがたこそ私たちの誉れであり、また喜びなのです」 :

- *パウロ、各々の信徒がキリストの健全な証人であるべきことの重要性を強調